

ロサンゼルス・インターナショナル・スクール

アメリカでの日英バイリンガル・バイカルチャー教育 第3回

「LA インター」の特徴 (3)：何を学ぶ学校？

ディレクター 鈴木 寛人

バイリンガル・スクールといわれても、何を、どのように学ぶ学校が分かりません。
今回は、LA インターの学習内容の概要を紹介しましょう。

多様な受講科目

LA インターでは、カリフォルニア州の公立高校の卒業のために必要とされている受講科目を基本としています。

それらの科目に加え、国語や日本史などの日本に関する科目、調査・レポート作成・プレゼンテーションを行うプロジェクトなどの特別科目など、多様性に富んだ学習科目を開講しています。

これらの科目を大まかに紹介しましょう。

語学：国語・英語（読解・作文・英文和訳・会話など）

社会：アメリカ史・アメリカの政治・経済・現代社会

日本史・世界史

理科：理科総合・生物・科学・物理

数学：代数（1・2）・幾何・微積分など

体育

特別科目：プロジェクト・受験準備クラスなど

上の科目の内、特徴のあるものを具体的にみてみましょう。

1、国語

日本の学年相当の国語の授業は必修です。

現在、LA インターで学ぶ生徒全員の母語は、日本語です。

すなわち、抽象的な思考をする第一言語が日本語だということだ

す。そのため、LA インターでは、日本語（国語）を必修科目として、ただ単に言葉を学ぶ教科ではなく、抽象的な概念獲得や抽象的思考が自由に出来るレベルまで、学習内容を高めています。

抽象的思考は、言語能力に比例します。そのため、もう一つの言語である英語の学習と国語の授業の連携を図る努力を続けています。

また、国語の基礎力として、漢字検定試験の受験・合格を卒業条件にしています。日本の高校生に比べて、漢字に触れる機会の少ない生徒達ですが、真剣に取り組んで、好成績を挙げています。

2、英語

英語のクラスは、毎日、最低2時間あります。

一つ目は、英文読解（Reading）の習熟度別クラスで、ネイティブの先生が教えます。読解が中心ですが、レベルに応じて会話や英作文などを総合的に学びます。

このクラスで重要なことは、言葉の学習だけではなく、アメリカの教育を受けて育ったネイティブの先生が身に付けているスタディ・スキルを、生徒に自然な形で伝達してもらうことです。そのスタディ・スキル、例えば、ノートや教材の整理整頓から始まって、ノートのまとめ方、文章やレポートの書き方、プレゼンテーションの仕方などを、日常のクラス活動の中でトレーニングとして繰り返してもらうことです。そのスキルこそが、バイリンガルの学校で、たとえ日本人の生徒が大半を占める学校であってもアメリカにある学校で学ぶことの、大きな意義だとLA インターの教員は信じています。

次のクラスは、バイリンガルの日本人の先生が教える英文和訳です。「日本語で説明できなければ、その英文は読めていない。」という考え方で、訳した日本語を完璧にするのではなく、英文の内容がしっかり読めているかを確認するための和訳です。もちろん、レベル別のクラスになっています。



「児童による労働」を調べ、プレゼンテーション